

税務職員を装った者からの不審な電話や、 「振り込め詐欺」などにご注意ください

- 国税局や税務署の職員を名乗る者から電話があり、アンケートや年金受給調査と称して、年齢や家族構成、年金の受給状況、また、預金残高や口座情報などについて聞き出そうとする事例が発生しています。
- 税務職員を名乗る者から、「あなたに送付すべき滞納通知を同姓同名の別人に間違えて送付してしまった」との連絡があり、住所、氏名等を聞き出そうとする事例が発生しています。
- 税務職員を名乗る者が、未公開株や社債の取引に関連して、銀行の口座情報を聞き出そうとしたり、手数料の支払いを要求する事例が発生しています。

税務職員を名乗る者から電話などがあり、その内容について不審に思われた場合には、即答を避け、相手の所属部署、氏名、電話番号を確認した上で一旦電話を切り、**最寄りの税務署の総務課又は国税局の納税者支援調整官までお問い合わせください。**

詳しくは国税庁ホームページをご覧ください www.nta.go.jp

国税庁

検索
Click!

随 筆

新年度に入り、今年も「春の交通安全運動」が全国一斉に行われた。ここ数年の重点テーマとして「子どもと高齢者の交通事故防止」が掲げられている。特に春先は、小学校に新入学した児童たちを交通事故から守ろうという気運が高まる。しかし、警察、学校、地域が一体となって登下校時の見守り活動を行う努力にも関わらず、通学時の児童の列に車が突っ込むという悲惨な事故の報道を耳にした。

警視庁によると、ここ2009年～2013年の5年間で歩行中に交通事故に遭って死傷した小学1年生の数は計約1万600人、2年生は約9千200人いたそうである。このデータを月別に集計すると、1年生の死傷者は4月に約690人だったが、5月は約1千30人と急増。6、7月も1千人を超えているそうである。

5月から7月に事故に遭った1、2年生のうち約6割が午後2時から6時に交通事故にあっており、放課後や休日に友人らと遊んでいて事故に遭うケース

が目立ち、公園から飛び出たボールを追いかけて路上に走り出る「飛び出し」や「横断歩道がない道路での横断」、「信号無視」、「自転車での飛び出し」等で交通事故に遭うケースも多いという。

入学や進級時直後の4月、5月は、交通ルールや事故に巻き込まれやすい状況について、学校や家庭から指導を受ける機会が多い。しかし、6月以降はこうした機会が減る一方、新しい友人が増えるなどして行動範囲も広がるとみられる。この時期に事故が急増するのは、交通安全に関する子供たちの意識が低下することが一因であると思われるが、われわれ大人たちもこの時期になると、慣れからか、ふと気が抜けるのも事実であろう。

慣れが危険 この時期 子供の交通事故に注意

西日暮里支部長 熊井昌一郎

警視庁は、6月以降も継続的に子供たちに交通ルールを守るよう指導をする機会をつくり、登下校時の見守り活動を行うなどの対策を求めている。どのような教育でもそうだが、子供たちに「交通ルール」を身に着けさせるには時間と継続性が必要であろう。気が抜けかけるこの時期だからこそ、家庭、学校、地域で注意を喚起し、皆で大切な子供たちを悲惨な交通事故から守っていききたい。